

～起業を通して福島に暮らす皆さまに生きがいを～ 第1回「喜業(起業)セミナー」を開催

平成24年2月25日(土)、日本行政書士連合会 被災者相談センター 福島事務所にて「喜業(起業)セミナー」を開催いたしました。当日、郡山市内は前日からの大雪となりましたが、12名の皆様にご参加頂き、地元新聞社による取材も入りました。セミナーは、第1部「たとえばこんなはなし」、第2部「むずかしいこと」、第3部「お金のこと」の三部構成。それぞれのセッション担当講師の心をこめた起業に関する講演内容に、参加された皆様も熱心に聞きいつている様子でした。セミナーの合間には、皆様から近況を伺いましたが、その中では原発事故発生現場直近の浪江町から郡山市に避難され、勤務されていた事務所も浪江町であった為に生活基盤と職を同時に失い東京電力損害賠償請求を十二分に検討する余裕もなく進めてしまった話や、既に避難生活者の皆様へ自分でやれる範囲の創業を広められている話など、今後の被災者相談センターの活動に参考となる事例を伺う事ができました。



説明を行う同事務所怡土所長

おかげさまで、盛況のうちに無事「喜業(起業)セミナー」を終了する事ができ、ご参加いただいた皆様にご心より御礼を申し上げます。今後も被災者の皆様への支援活動と「ゆめ・希望づくり」に尽力してまいります。

●喜業セミナーを終えて～講師の皆さんの感想～

第一部講師 佐藤和幸 専門員



宮城県や岩手県では様々な支援団体が入り、復興への道を着実に前を向いて歩んでいるように思われます。しかし、福島県では原発事故の影響が大きく、故郷へ戻ることができるかどうか分かりません。不安は皆一緒だと思いますが、誰とも話さず何もせずに仮設や借上げの住宅にずっといても、更なる不安ばかりが募っていくのではと思いました。そうした状況の中、被災者相談センターでも相談以外で何か被災者の方々のお役に立てることはないかと考え、起業セミナーの開催を提案いたしました。起業といっても一般的な起業というわけではなく、仮設にいるよりは、毎日何かしらの仕事があって、他の住民の方と話ができて、少しでも「今日は楽しかった」と思っていたきたいという考えがありました。そこで、実際に出向いている宮城県での例を紹介するとともに、支援団体の実際の支援例や、商品開発といっても難しい事ではないといったことをセミナーの中で説明しました。

セミナー後には、紹介した例について「自分もやりたいので具体的に教えてほしい」、「同じような活動をしているので支援団体を紹介してほしい」といった問い合わせを何件かいただきお答えいたしました。少しはお役にたてたのではないかと思います。身近にいる誰かを喜ばせるためには、まず自分が喜んで何かをしなければなりません。だから、今回のセミナーは「喜業セミナー」というタイトルをつけてみました。喜びの輪が広がりますように。

第二部講師 佐藤伸弘 専門員

先日、2月25日に日本行政書士会連合会被災者相談センター福島事務所で第1回目の「喜業（起業）セミナー」を開催しました。目的は、「行政書士の周知」と被災者が少しでも前を向くための「生きがい創出」。スタッフみんなで力を合わせ、通常業務と並行して1ヶ月ほど前から準備をしました。セミナーは3部構成からなり、私のパートは第2部の「会社の形態」と「許認可」についてでした。30分と限られた時間の中で、伝えたいメッセージは、「個人事業、会社組織それぞれのメリット・デメリット」と許認可特に「飲食店開業までの一連の流れとそれに付随する許認可」についてです。特に緊張はありませんでしたが講義内容については不安がありました。それは、申込みをしてくれた人が「喜業」というセミナーに何を期待しているか読めなかったからです。現在どういう境遇なのか、具体的には仮設住宅か否か、有職か否か、事業の規模はどのくらいを考えているか、年齢層は?など受講者とのミスマッチを生じることを懸念していました。受講者がセミナーの前後により、より希望を感じ前向きに生きる方向に導けたかどうか。答えは出ていませんが、セミナー全体のアンケートでは概ね好評だったようです。

今後、第2回目も検討中ですが、もう一度、初心に戻り「被災者支援につながるセミナーとは何か」を追求していきたいと思っています。

第三部講師 石井泰子 専門員

年が開けて、今後の被災者相談センターの活動内容を検討しました。どこに相談すればよいか迷うほどさまざまな機関が相談窓口を設けている中で、「行政書士ができることは何か」と考えたときに「起業」から入っていくのが、一番広く関われるのではないかとということになりました。特に原発被災者の方々は、戻りたいという思いを抱え震災前の生活と切り替えることを悩んでいらっしゃいます。大げさなものでなく、ちょっと勇気を出すことで、少しでも気持ちが明るくなればと思います、このセミナーに取り組みました。以前から行なっていた自治体への周知活動とともに、セミナーのチラシを仮設住宅の集会所、周辺公共機関、医療施設等に配布しました。結果としては、好意で掲載してくれたタウン誌からの反響が多かったようです。

2月25日(土)セミナー当日。久しぶりの雪で、郡山は一面真っ白く覆われていました。無料セミナーだし、交通状況も悪くなってしまって参加者は減るだろう と思いました。ところが、わざわざ電話をくださる方、30分遅れても聴講してくださる方もいました。講師初体験の私に、その熱意に報えるものが提供できたかどうか…。…何か始めたい。少しでもアクションを起こしてみたい。同じ思いを共有したい。不安を解消したい…。無料セミナーでも、参加者はとても熱心でした。私自身の反省点は多々ありますが、受講者の方々が笑顔で帰って行かれたことだけでも十分に開催した成果はあったと思います。ひたむきに生きている姿を見て、私の方がスキルアップに励もうと触発されました。アプローチの方法は様々ですが、今後も笑顔を生み出すことによって行政書士が認知される活動を続けていきたいと思っています。

●来場者アンケート

2月25日(土)実施

参加人数12名(アンケート回収率 11/12)

1.性別	・男性(3名)			・女性(9名)		
2.年齢	・10歳未満(0名) ・10代(0名) ・20代(1名) ・30代(2名) ・40代(3名)			・50代(2名) ・60代(2名) ・70代(1名) ・80歳以上(0名)		
3.住まい	・郡山市内(10名)			・その他(白河市1名)		
4.セミナー情報	・ウィークリー(4名) ・チラシ(0名) ・新聞(2名) ・役所(1名)			・仮設住宅(0名) ・知人(3名) ・インターネット ・その他(富久山図書館1名)		
5.感想(全体)	・良い(4名) ・まあ良い(6名) ・ふつう(1名)			・やや悪い(0名) ・悪い(0名)		
6.感想(各部)	第一部 佐藤和幸	第二部 佐藤伸弘	第三部 石井泰子			
	・良い(6名) ・まあ良い(3名) ・ふつう(1名) ・やや悪い(0名) ・悪い(0名) ・回答なし(1名)	・良い(4名) ・まあ良い(4名) ・ふつう(1名) ・やや悪い(0名) ・悪い(0名) ・回答なし(2名)	・良い(2名) ・まあ良い(4名) ・ふつう(3名) ・やや悪い(0名) ・悪い(0名) ・回答なし(2名)			
7.今後希望するテーマ	・遺言.相続.エンディングノート(4名) ・起業後(3名)			・悪徳商法(2名) ・家族(親子、夫婦間)の法律(0名)		
8.その他	・参考になった、楽しかった(5名)			・起業後の話を更に聞きたい(1名)		